

め だか いち い せき
女 高 I 遺 跡

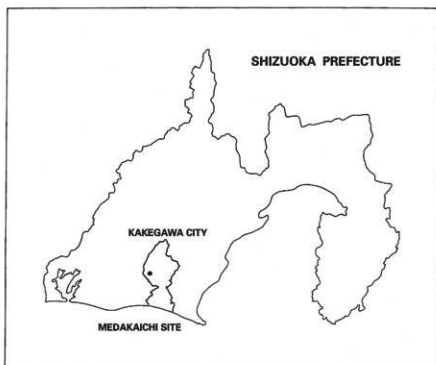
茶園改植に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2006

掛川市教育委員会

め だか いち い せき
女 高 I 遺 跡

茶園改植に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書



2006

掛川市教育委員会

目 次

I 調査に至る経緯	1
II これまでの調査歴	1
III 調査の方法と調査区の設定	3
IV 調査の経過	4
V 地理的・歴史的環境	4
VI 発掘調査の成果	11
VII ま と め	23

挿 図 目 次

第 1 図 全体区割図	2	第 8 図 SB-4 実測図	15
第 2 図 周辺遺跡分布図	5	第 9 図 火葬遺構実測図	16
第 3 図 調査地点位置図	8	第 10 図 出土遺物実測図(1)	18
第 4 図 遺構全体図	9	第 11 図 出土遺物実測図(2)	19
第 5 図 SB-1 実測図	12	第 12 図 出土遺物実測図(3)	20
第 6 図 SB-2 実測図	13	第 13 図 出土遺物実測図(4)	21
第 7 図 SB-3 実測図	14	第 14 図 出土遺物実測図(5)	22

挿 表 目 次

第 1 表 周辺遺跡一覧	6	第 2 表 出土土器観察表	24
--------------	---	---------------	----

写真図版目次

図版 1 調査地遠景 (東から河岸段丘を望む) 調査地南区全景	図版 5 火葬遺構検出状況 (北から) 火葬遺構内遺物等出土状況 (北東から) 火葬遺構完掘状況 (北から)
図版 2 調査前の状況 (南東から) 調査地南区完掘状況 (北から) 調査地北区完掘状況 (南から)	図版 6 出土遺物(1)
図版 3 SB-1 完掘状況 (北から) SB-2・SB-3 完掘状況 (北から) SB-4 完掘状況 (北から)	図版 7 出土遺物(2)
図版 4 SB-3 床面遺物出土状況 (西から) SB-1 炉跡 (北東から) SB-2 炉跡 (南東から)	

I 調査に至る経緯

女高I遺跡が所在する和田岡原(各和原・高田原・吉岡原)には、縄文時代から古墳時代にかけての遺跡が多数集中して存在する。中でも、直径30mの円墳・春林院古墳、全長40～60mを越える前方後円墳・吉岡大塚古墳、瓢塚古墳、各和金塚古墳、行人塚古墳と数多くの中小円墳が台地縁辺部に占地しており、これらは和田岡古墳群として知られている。

これら遺跡の多くは、現在、茶畑として利用されているが、茶園改植(茶の品種改良に伴い、畑地の水はけを良くするために土壌を改良する、いわゆる“天地返し”を行うことが多い)により、遺跡の一部が消滅する事態が生じている。掛川市教育委員会では、茶園改植に伴い消滅する状況となった遺跡に対し、その記録保存を目的とした発掘調査を実施している。

今回調査の対象となった地点でも同じ事態が生じた。平成16年4月、地権者の一人である山崎孝弘氏から来年に茶園改植を行いたい旨の連絡を受けた。当該地は国指定史跡「行人塚古墳」に近接し、また、昭和63年度に発掘調査を実施した個所に隣接した地点であることから当該地に遺跡が存在することは明らかであった。そこで、平成16年度の補助事業増額申請の手続きをとり、本発掘調査を実施することとなった。

本発掘調査は、平成16年10月12日～同年12月24日まで実施した。本発掘調査終了後、山崎孝弘氏から茶園改植について文化財保護法に基づく届出が提出された。

- 文化財保護法第57条の2に基づく埋蔵文化財発掘届(茶園改植)平成17年1月11日付
- 土木工事等のための発掘調査に係る指示について(工事立ち会い)教文第10043号 平成17年1月20日

平成17年1月6日～同年3月18日までの間、報告書刊行に係る整理作業を行った。

II これまでの調査歴

女高I遺跡の発掘調査は昭和57年度を皮切りに、現在までに6次を数える。

昭和57年度に第1次調査が行われた。調査は、市内遺跡分布調査及び茶園改植に先立って行われた。調査面積は約1,000㎡で、古墳時代前期の竪穴住居跡10軒、掘立柱建物跡1棟、土坑7基、小穴多数が検出された。この調査での最大の成果は、それまで円墳と考えられていた行人塚古墳が、西向きの方後円墳であることが確認されたことであろう。これにより、古墳の規模が全長約42m、後円部径約24m、前方部長約18mを測ることがわかった。

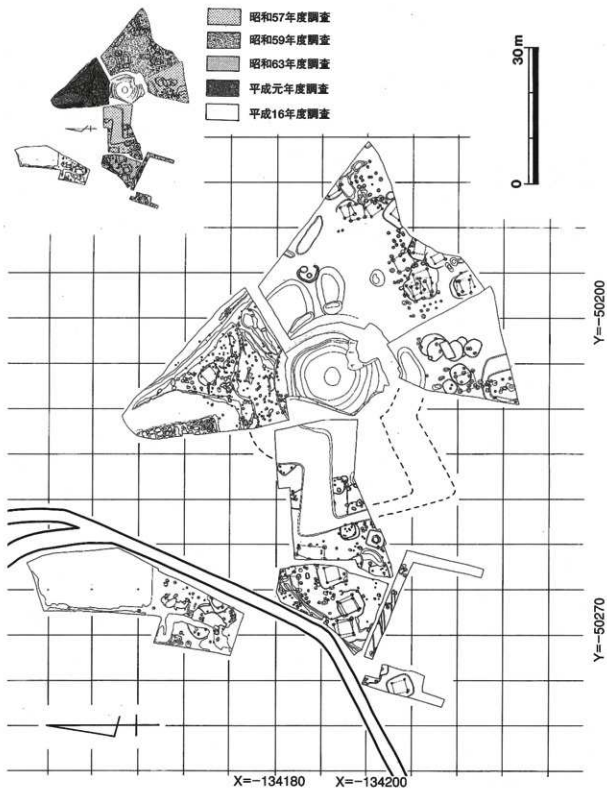
昭和59年度には、第2次調査が実施された。発掘調査は、茶園改植に先立って行われた。調査面積は約1,300㎡で、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての竪穴住居跡13軒、掘立柱建物跡3棟、土坑3基、不明遺構7基が検出された。この他、行人塚古墳の周溝、方形周溝が検出されている。

昭和63年度には、茶園改植に先立つ発掘調査として、第3次調査が行われた。調査面積は約250㎡で、竪穴住居跡3軒、掘立柱建物跡1棟のほか、溝状遺構4条、小穴多数が検出された。

平成元年度には、茶園改植に先立って第4次調査が行われた。調査面積は約700㎡で、弥生時代後期から古墳時代前期の竪穴住居跡1軒、溝状遺構4条のほか、近世土坑1基が検出された。溝状遺構は一辺18mを越える方墳の周溝と考えられ、この規模の古墳が相当数、地中に埋もれている可能性を示唆するものである。

同じ平成元年度には道路拡幅工事に伴って調査が行われた。調査面積は約22.5㎡で、柱穴等が検出された。

平成7年度には茶園の改植に伴い1,400㎡が調査され、弥生時代後期から古墳時代中期にかけての竪穴



第1図 全体区割図

住居跡、掘立柱建物跡、溝などが検出された。

女高Ⅰ遺跡に隣接する高田遺跡は、女高Ⅰ遺跡よりも土器型式で一段階遅い時期、弥生時代後期に営みを開始した集落跡で、これまでに地点を変え7次の調査が行われている。調査総面積は約7,400㎡で、検出された遺構は、竪穴住居跡94軒、掘立柱建物跡16棟等である。

女高Ⅰ遺跡にくらべ、高田遺跡の方が遺構の密度が高いといえそうである。ただし、女高Ⅰ遺跡、高田遺跡とも集落の範囲等まだ明確ではなく、高田遺跡内では集落の中心部分を調査しているのかもしれない。

Ⅲ 調査の方法と調査区の設定

1 調査区の設定

X = -134130.000m、Y = -50270.000mを起点とし、一区画を10m四方で区切り、その区画ごとにX軸を1,2・・・の算用数字、Y軸をA、B・・・のアルファベット順で表記した。地区の呼称は左上角を基準とし、A1、B2・・・のように表した。(第4図参照)

現地ではこの区画の基準杭をもとにさらに1m方眼を設定し、水系を張り実測を行っている。

2 発掘調査

調査は、調査区を2分割し、まず、北半部を重機により表土(黒ボク土)除去を行い開始した。当初から黄褐色土・小礫が散在していたため、過去に天地返しを行った可能性があると予測された。掘削後、攪乱されていたため、急速、調査方針を変更し、土器の採集作業と遺構の残存状況を把握することに努めた。この作業終了後、作図作業を実施し、北半部の調査を終了した。南半部については、重機により表土除去を行い、黄褐色土の地山面で精査、遺構確認、そして、検出した遺構を人力によって掘り下げ、遺構の作図作業、写真撮影を終え完了した。

測量用の基本杭の設置は、業者に委託し、経緯座標軸(第Ⅷ座標系)を基に真北に合わせて各調査区域を10m間隔で設置した。また、ベンチマークの高さの基準は、標高を使用し、世界測地系によった。

遺構等の実測にあたっては、1m方眼に水系を張り、遺構実測は1/20縮尺で、遺物出土状況図は1/10縮尺で記録した。これらの遺構、遺物には標高を記録した。土層図も1/20縮尺で記録した。

写真撮影は、プロニーサイズ(6×7)原画白黒、35mmサイズカラーネガ、同カラーリバーサル、同モノクロを用いて撮影した。このほか業者に委託して、ラジコンヘリコプターで調査区全景、遺跡遠景などの撮影を行った。なお、空中写真撮影の際には、遺跡全体の清掃等を行い、写真を効果的に見せるため遺構の輪郭を消石灰で縁取りした。

3 整理・報告作業

出土した土器は洗浄し、自然乾燥させた後、注記・接合を行った。ここである程度復元可能なもの、復元が必要なものを抽出し、石膏で復元を行った。

遺物実測作業及び図面整理・浄書作業は、平成16年度に行った。報告書の実測図版に使用するため、現地で実測した遺構図(1/20縮尺)などを基本に調査区全体図及び各遺構図、遺物出土状況図などの編集図版下を作成した。さらに、編集図版下浄書(トレース)し、印刷ができるよう整飾した。遺物実測図も浄書(トレース)し、印刷ができるよう同じく整飾した。

写真類は撮影順にアルバムに整理し、遺構名などを記した。これらの中から報告書の写真図版に掲載するための写真を抽出した。これらの写真を所定の大きさに引き伸ばし、版組、割り付けし、また、遺物写真は撮影後、版組、割り付けした。

報告書執筆作業は、発掘調査で得られた成果を原稿の形にまとめる作業で、整理された実測図版や写真図版及び原因等を基に、その遺構ごとに詳細を説明した。フロッピー入力された原稿により印刷

した。

Ⅳ 調査の経過

調査経過は、以下のとおりである。

10月12日 重機による掘削。13日 精査及び攪乱の除去。14・15日 遺構確認。18日 清掃・写真撮影。22日 平面図作成・レベリング。27日 空中写真撮影。28日 埋め戻し・反転掘削。

11月2～5日 精査・攪乱除去。8日 住居跡4軒確認。柱穴半裁。10・11日 茶毘跡完掘・写真撮影。16・17日 断面図作成。18～24日 完掘。

12月6～14日 平面図作成・レベリング 19日 現地見学会を行う。48人。21・22日 埋め戻し。24日 現地撤収。

Ⅴ 地理的・歴史的環境

地 理

掛川市は、静岡県西部地方（大井川以西）にあり、東経138度線上に位置する。南に小笠山、東に牧之原台地に続く丘陵、北には赤石山脈から連なる丘陵に取り囲まれ、その間を原野谷川、逆川をはじめとする中小河川が流路を形成している。これら河川が形成した沖積平野の端には開析した小さな谷が無数に入り込んでいる。

女高Ⅰ遺跡は、掛川市の最高点である八高山を源とする原野谷川が形成した和田岡原と呼ばれる河岸段丘上に位置する。段丘は、原野谷川西岸を中心に発達し、北に位置する原泉、原田、原谷地区では小規模な面積であるが、和田岡地区に至り東西約1.2km、南北約2.2kmに広がり広大な面積を持つ。また、東岸には独立丘陵の岡津原が形成され、南の各和地区から袋井市国本地区にかけても小規模ながら段丘が形成されている。

この段丘は第四紀洪積世に形成され、砂岩、頁岩の他に一部シルト層を挟んで成り立っているとされる。黒色土（いわゆる“黒ボク土”）、又は暗褐色土の下には、粘性のある緻密な黄褐色土が堆積している。遺構は、この黄褐色土を掘り込んで築かれている。

段丘は、大きく分けて標高60m前後の古岡原と呼ぶ上位段丘面と、標高40～50m前後の高田原と呼ぶ下位段丘面に区分される。当該遺跡は、下位段丘面の高田原に築かれている。段丘は第2図のように、南端が先細る舌状を呈し、緩やかに傾斜している。

歴 史

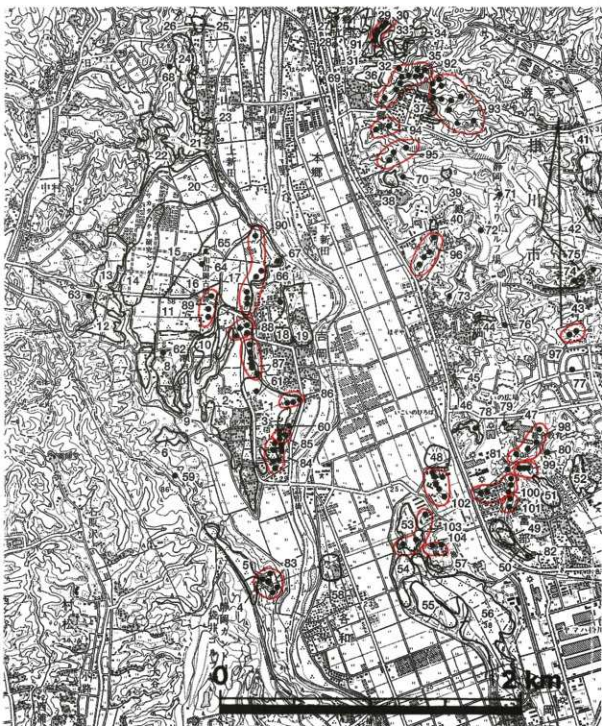
和田岡地区全域に、遺跡が所在すると言っても過言ではない。これは、第2図の周辺遺跡分布図を見ても明らかである。

この地に見られる最も古い人々の痕跡は、高田上ノ段（庵ノ下）遺跡で採集された尖頭器である。これは、堂山遺跡（原里）で採集された有舌尖頭器と同時期とされ、現在市内最古の尖頭器である。

縄文時代になると、遺跡は少しずつ広がりを見せ、瀬戸山Ⅰ・Ⅱ、向山遺跡で早期に属す遺物が出土している。中期になると、遺跡の数は増大し、最盛期を迎える。中原遺跡では竅穴住居跡が発見されている。その後、後・晩期になると和田岡では遺跡の数が減少していく。

弥生時代前期の動向は不明であるが、遺跡として姿を現すのは弥生時代中期になってからである。高田・古岡原では遺構は伴っていないが、岡津原の岡津原Ⅲ遺跡や各和の山下遺跡では、200mにも及ぶ墓域が形成されている。現在のところ、これらの墓域を形成した人々が営んだ集落は、段丘上では確認されていないため、周辺の低地に営んでいたと推定される。

弥生時代後期になると、遺跡が爆発的に増加する。高田・古岡原の段丘縁辺部には、至る箇所で重



第2図 周辺遺跡分布図

番号	遺跡名	時期	種類	番号	遺跡名	時期	種類
1	女高Ⅰ遺跡	弥生(中)～古墳(前)	集落	53	岡津原Ⅰ遺跡	縄文(中)、弥生(中・後)	散布地
2	高田遺跡	縄文(中)、弥生(後)～古墳(中)	集落	54	岡津原Ⅱ遺跡	縄文(中)	散布地
3	女高Ⅱ遺跡	縄文(前)、弥生(前)～古墳(前)、奈良、平安	散布地	55	岡津原Ⅳ遺跡	弥生(後)～古墳(前)	散布地
4	各和金鈴原遺跡	弥生(後)	散布地	56	岡津原Ⅲ遺跡	縄文(中)、弥生(中)～古墳(前)	散布地
5	高田金鈴原遺跡	弥生(後)	散布地	57	輪貸横穴群	不明	横穴
6	平田ヶ谷遺跡	縄文(中)、弥生(後)～古墳(前)	散布地	58	各和氏館跡	中近世	城館
7	瀬戸山Ⅱ遺跡	縄文(早・中・晩)～古墳(前)	集落	59	高田古墳	古墳(中)	円墳
8	瀬戸山Ⅰ遺跡	縄文(早・中)、弥生(後)～古墳(前)	集落	60	狐塚古墳	古墳(中)	前方後円墳
9	瀬戸山Ⅲ遺跡	弥生(後)～古墳(前)	集落	61	行人塚古墳	古墳(中)	前方後円墳
10	花ノ腰遺跡	弥生(後)～古墳(前)	散布地	62	瀬戸山古墳	不明	円墳
11	吉岡原遺跡	縄文(中・後)、弥生(後)～古墳(前)	集落	63	今坂古墳	古墳(後)	円墳
12	大向遺跡	縄文(中)	散布地	64	高川上ノ段古墳	古墳(後)	円墳
13	今坂遺跡	弥生(後)～古墳(前)	散布地	65	吉岡大塚古墳	古墳(中)	前方後円墳
14	藩ノ口遺跡	縄文(中)、弥生(後)～古墳(前)	集落	66	官脇行人塚古墳	不明	円墳
15	中原遺跡	縄文(中)	集落	67	春林院古墳	古墳(中)	円墳
16	高田上ノ段遺跡	弥生(後)～古墳(中)	集落	68	後藤ヶ谷古墳	不明	円墳
17	吉岡下ノ段遺跡	縄文(中・晩)、弥生(後)～古墳(前)、平安	散布地	69	長福寺門前古墳	不明	円墳
18	西村遺跡	古墳(中)～奈良	散布地	70	中殿谷古墳	不明	円墳
19	林遺跡	弥生(後)～古墳(前)、平安、中近世	集落	71	冷池古墳	古墳(中)	円墳
20	東原遺跡	縄文(晩)、弥生(後)～古墳(前)	散布地	72	穴ノ台古墳	古墳(中)	円墳
21	城ノ腰遺跡	弥生(後)～古墳(中)	散布地	73	谷ノ口古墳	古墳(中)	円墳
22	西山城	中近世	城館	74	月様古墳	古墳(後)	円墳
23	中山遺跡	弥生(後)～古墳(前)	散布地	75	宇割古墳	古墳(後)	円墳
24	後藤ヶ谷遺跡	弥生(後)～古墳(中)	散布地	76	堂前古墳	古墳(中)	円墳
25	久保遺跡	弥生(後)	散布地	77	狐谷古墳	不明	円墳
26	久保山横穴群	不明	横穴	78	山崎古墳	古墳(中)	円墳
27	長福寺西遺跡	縄文(後)～弥生(後)、奈良、平安	集落	79	土橋古墳	古墳(中)	円墳
28	長福寺脇下横穴群	不明	横穴	80	赤湖古墳	古墳(中)	円墳
29	本郷城	中近世	城館	81	土橋古墳	古墳(中)	円墳
30	古城遺跡	弥生(後)、奈良	散布地	82	八王子神社古墳	不明	円墳
31	宮坂遺跡	不明	不明	83	各和金塚古墳群	古墳(中)	前方後円墳
32	宮坂横穴群	古墳(後)	横穴	84	谷房ヶ谷古墳群	古墳(中)	円墳
33	北ノ谷横穴群	古墳(後)	横穴	85	高田古墳群	古墳(中)	円墳
34	原砦	中近世	城館	86	女高古墳群	古墳(中)	円墳
35	古戦横穴群	古墳(後)	横穴	87	東登口古墳群	不明	円墳
36	堂下遺跡	古墳(後)～奈良	散布地	88	藤六古墳群	不明	円墳
37	楠ヶ谷横穴群	古墳(後)	横穴	89	吉岡原古墳群	古墳(後)	円墳
38	中氏館跡	中近世	城館	90	吉岡下ノ段古墳群	古墳(中)	円墳
39	高藤城	中近世	城館	91	宮坂古墳群	古墳(後)	円墳
40	殿ノ台遺跡	弥生(後)	散布地	92	堂山古墳群	古墳(中)	円墳
41	味噌ヶ谷北遺跡	平安、中近世	散布地	93	相ヶ谷古墳群	古墳(中)	円墳
42	味噌ヶ谷横穴群	不明	横穴	94	稲荷山古墳群	古墳(中)	円墳
43	十五ヶ谷横穴群	古墳(後)	横穴	95	五輪平古墳群	古墳(中)	円墳
44	堂前横穴群	古墳(後)	横穴	96	菅一王子神社古墳群	不明	円墳
45	甚虎ヶ谷横穴群	古墳(後)	横穴	97	蟹沢古墳群	古墳(後)	円墳
46	山崎遺跡	弥生(後)～古墳(前)	散布地	98	長沢古墳群	不明	円墳
47	土橋横穴群	古墳(後)	横穴	99	富部古墳群	古墳(中)	円墳
48	高代山砦	中近世	城館	100	権田ヶ谷古墳群	古墳(中)	円墳
49	二反田遺跡	弥生(中)	散布地	101	枕田古墳群	古墳(中)	円墳
50	富部城跡	中近世	城館	102	高代山古墳群	古墳(中)	前方後円墳
51	富部遺跡	不明	散布地	103	旗差古墳群	古墳(後)	円墳
52	義平遺跡	弥生(後)～古墳(前)	散布地	104	輪貸古墳群	不明	円墳

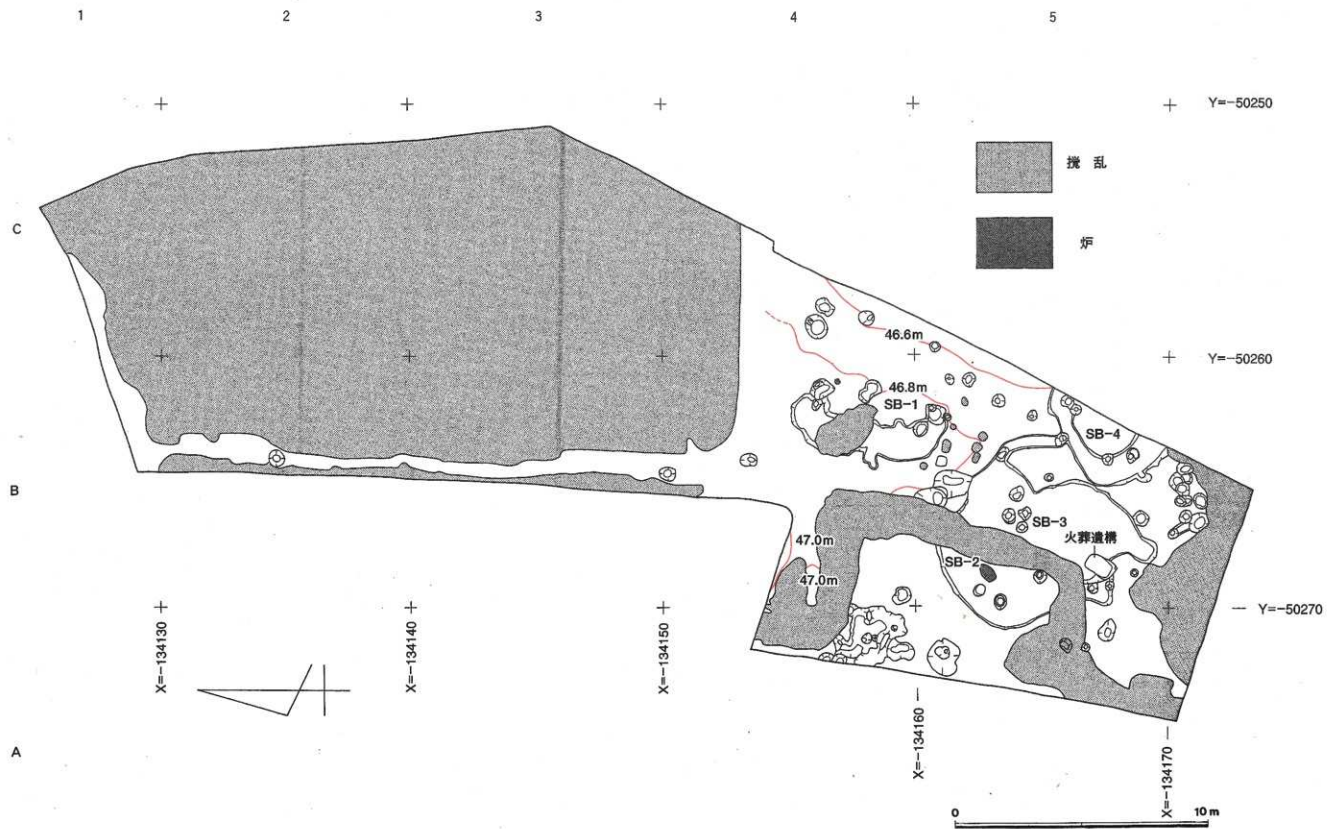
第1表 周辺遺跡一覧

なり合った竪穴住居跡が確認されている。集落は、古墳時代前期に継統されるものが多いが、その数は減少する。一方、近年の調査では、段丘の南において古墳時代前期に集落の最盛期を迎える遺跡も発見されてきた。東遠江で見た場合、弥生時代後期後半から沖積地に立地する遺跡が減少し、同時に、台地上もしくは高所に多くの集落が営まれる傾向がある。この和田岡地区においてもその傾向がみられる。これは、東遠江一帯に社会的緊張関係が続いたことから、段丘上に集落が営まれたものと理解されている。

古墳時代中期5世紀になると、各和金塚古墳、瓢塚古墳、行人塚古墳、吉岡大塚古墳、春林院古墳といった和田岡古墳群（平成8年国指定史跡）が築造される。また、和田岡地区では、これら首長墓のほかに、刀子などが供えられた長方形の掘り方をもつ土壇墓、方墳、円墳などが検出されている。前期まで営まれた集落は、中期になると姿を消している。現在、女高I遺跡の竪穴住居跡1軒がこの時期のものとして確認されているに過ぎない。和田岡古墳群を造営した集団は、社会的緊張が解け、低地へと集落の場を移していったのであろうか。今後、沖積地において発掘調査されることによって明らかとなるであろう。

〔参考文献〕

- | | | |
|------|------|-----------------------------|
| 松本一男 | 1983 | 『行人塚遺跡発掘調査概報』掛川市教育委員会 |
| 松本一男 | 1986 | 『高田上ノ段遺跡発掘調査報告書』掛川市教育委員会 |
| 松本一男 | 1988 | 『高田遺跡発掘調査概報』掛川市教育委員会 |
| 前田庄一 | 1989 | 『女高遺跡発掘調査報告書』掛川市教育委員会 |
| 松本一男 | 1990 | 『藤六3号墳・高田遺跡発掘調査報告書』掛川市教育委員会 |
| 松本一男 | 1990 | 『女高遺跡・行人塚古墳発掘調査報告書』掛川市教育委員会 |
| 松本一男 | 1991 | 『吉岡原遺跡発掘調査報告書』掛川市教育委員会 |
| 井村広巳 | 1994 | 『高田遺跡発掘調査概報』掛川市教育委員会 |
| 村松弘規 | 1996 | 『女高I遺跡発掘調査概報』掛川市教育委員会 |
| 井村広巳 | 2000 | 『溝ノ口遺跡』掛川市教育委員会 |



第4图 遺構全体图

VI 発掘調査の成果

今回の調査では、弥生時代後期から古墳時代前期に属する竪穴住居跡4軒のほか、近世の火葬遺構1基を検出した。

以下にその成果について、遺構・遺物に分け、順次、報告する。

1 遺 構 (第4図～第9図、図版2～図版5)

(1) 竪穴住居跡 (第5図～第8図、図版2～4)

1号住居 (SB-1) (第5図、図版3・4)

調査区B4・B5区で検出された。平面の形状は円形と推定される。規模は現況で南北、東西ともに5m以上と推定されるが、全体規模は不明である。西側に幅1.2～1.5m、確認面からの深さ13～15cmの半円形の溝がめぐる。小穴は11基検出された。このうちSB-1に関わる柱穴は3基と推定され、柱穴は、半円形の溝の中に掘られている。深さはいずれも床面から15～20cm程度である。1基は区域外と思われる。住居跡の西北部から地床炉が検出されている。

2号住居 (SB-2) (第6図、図版3・4)

調査区A5・B5区で検出された。平面の形状は、楕円形を呈し、南北4.0m以上、東西5m以上の規模で、SB-3と重複するが切り合いは判断できなかった。住居跡のほぼ中央を縦断する擾乱溝より西側は残存状況が良く、住居の構造を確認することができた。確認面から床面までの深さは約15cmを測る。断面・平面のいずれにおいても壁溝は確認されなかった。掘り方上に、黄色土と黒褐色土が混じった土を約10cmの厚さで敷き、床面を形成していた。小穴が7基住居内から検出されている。このうち、柱穴に該当するものが3基検出された。これらの柱穴は、直径約50cmの円形を呈する。柱穴間の距離は、東西約2.65m、南北約1.9mである。東西方向の柱穴は、N-62°-Eを測り、南北方向の柱穴は、N-36°-Wを測る。柱穴は、床面から約30cmの深さがある。西北寄りから地床炉が検出されている。

3号住居 (SB-3) (第7図、図版3・4)

調査区B5区で検出された。平面の形状は、隅丸方形をなすと思われるが規模は不明である。SB-2と重複する。小穴が4基住居内から検出されている。この住居に伴う柱穴は不明である。

4号住居 (SB-4) (第8図、図版3)

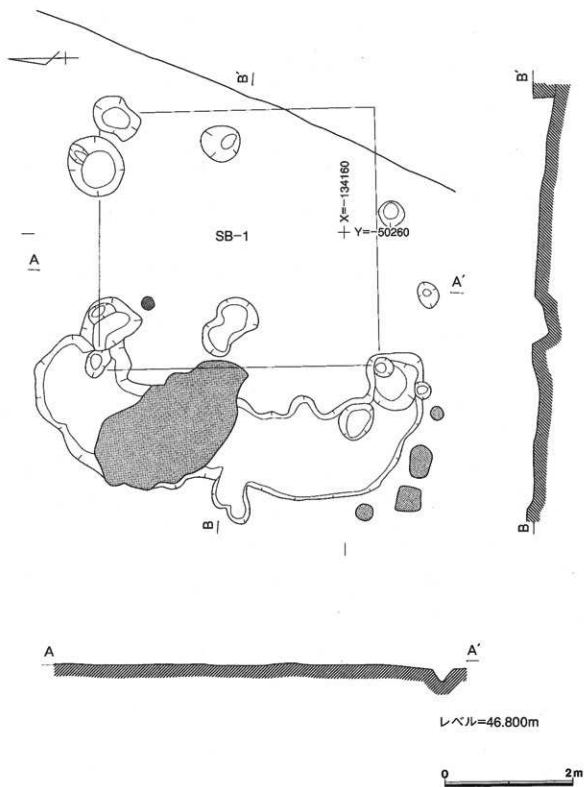
調査区B5区で検出された。平面の形状は、隅丸方形を呈し、南北5m、東西は不明である。壁沿いに幅0.55～1.2m、確認面からの深さ約15cmの溝がめぐる。小穴が住居跡内から4基され、うち2基が柱穴に該当するものと推定される。柱穴は、壁から0.8～0.9m離れた位置にある。柱穴は、直径40～45cm、深さ35～40cmを測る。柱穴間の距離は、2.35mを測り、方位は、N-57°-Eを測る。

(2) その他の遺構

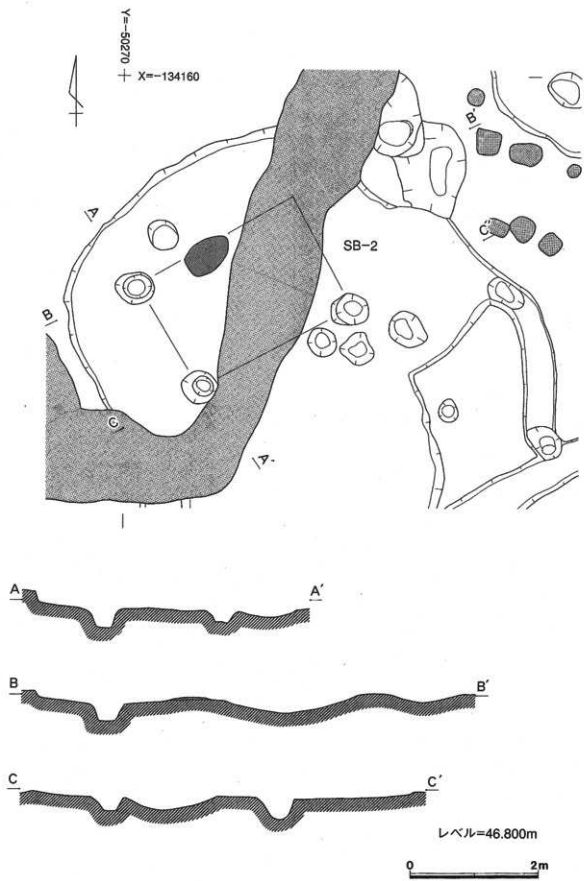
火葬遺構 (第9図、図版5)

調査区B5区で検出された。長軸1.2m、短軸0.6mを測る隅丸方形の土坑である。主軸方向の底面は水平ではなく、北端から中央に向かって傾斜し、中央部分が最深となる。主軸は、N-33°-Eを測る。炭化材や火葬骨などが検出された。炭化材は、南端に集中し、取骨されなかった火葬骨は中央部分から検出された。かわらけ3枚が、中央南寄りから出土している。掘方の中央北寄りに2箇所、南寄りに1箇所焼土化した部分が存在した。

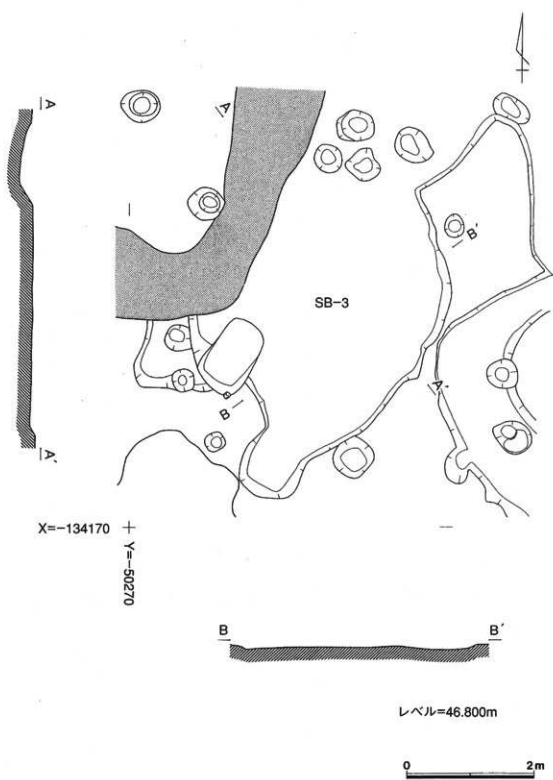
2 遺 物 (第10図～第14図、図版6・7)



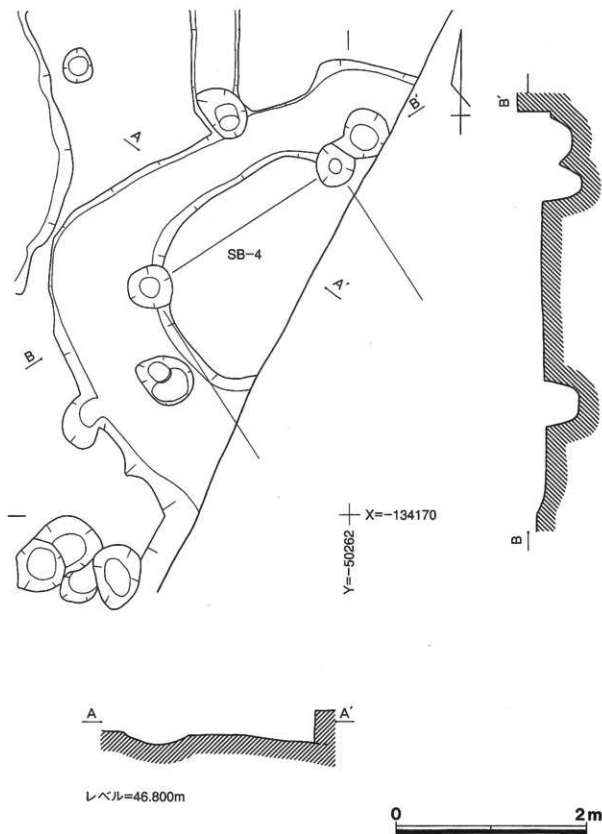
第5図 SB-1実測図



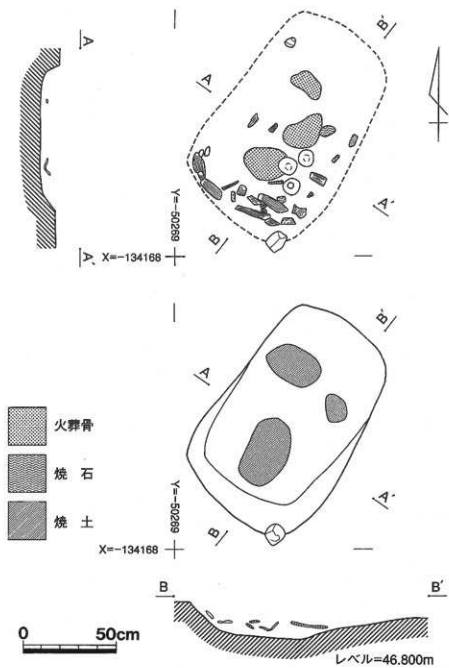
第6図 SB-2実測図



第7図 SB-3実測図



第8図 SB-4 実測図



第9図 火葬遺構実測図

特徴のある文様等を持つ土器を可能な限り実測、掲載した。以下、順次説明する。なお、土器の計測値や色調等は観察表として第2表に記した。

1～10は、SB-2から出土した壺破片である。1は折り返し口縁で、口唇部に刻み目をもつ。断面は、長方形を呈す。2～5は肩部付近の破片で、櫛描押圧横線、羽状刺突文が施される。7～10は底部破片である。

11～15は、SB-3から出土した壺及び甕破片である。11は壺の口縁部破片で、内面に縄文、外面に縦位の線刻を4条施す。駿河系の要素をもつ。12は壺の頸部破片である。外面は縄文、棒状浮文を施す。13は壺の胴部下半の破片である。14は甕の上半部の破片である。内外面に刷毛目調整を施す。口縁部端面には刻み目をもたない。15は、口縁部が欠落した壺破片である。

16～19はSB-4から出土した壺破片である。16は壺の頸部の破片である。17は壺の口縁部破片で内外面ともに縄文を施す。18は肩部付近の破片である。外面に羽状縄文を施す。19は体部破片で、外面に縄文を施す。

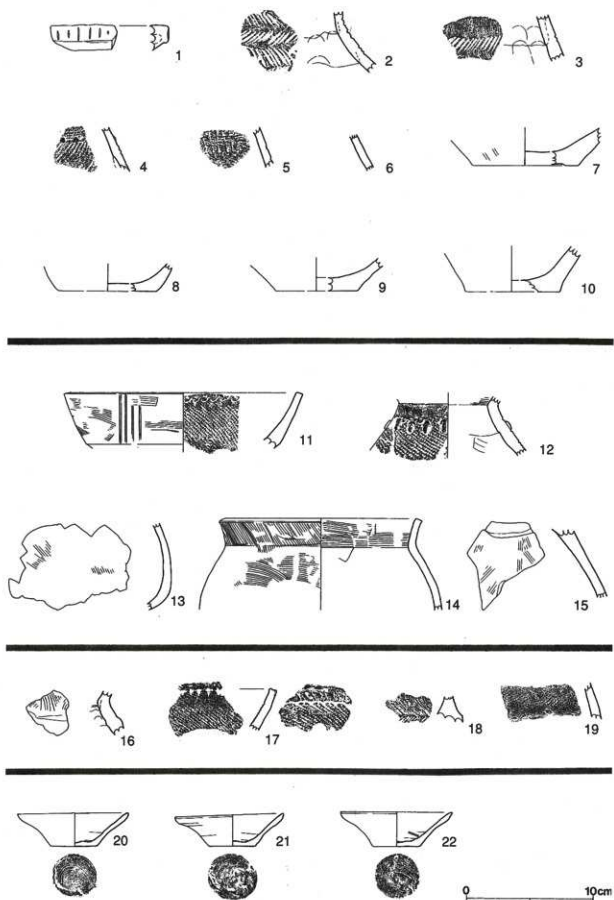
20～22は火葬遺構から出土した轆轤整形のかわらけで、八の字形を呈するその形状から江戸時代初頭と考えられる。糸切痕を底部に残す。

23～46は耕作土内及び包含層中から出土した壺、甕、高杯の破片である。28は受け口状の壺口縁部破片で、外面に櫛描横線を施す。折り返し口縁部片(29)、羽状縄文を施したもの(33,36,38)、甕口縁部(27,40)には刻み目はみられないなど弥生時代後期後半から古墳時代前期の様相を呈する破片が多い。

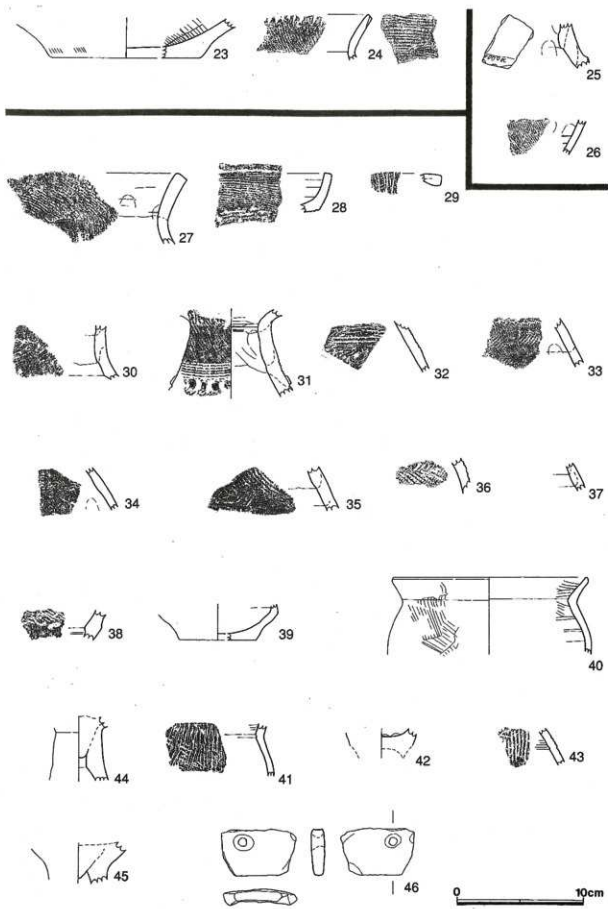
また、これらには属さない破片もみられる。46がそれで、5.8cm×3.2cm、厚さ1.0cmの長方形を呈する土器の破片と思われ、角隅には穿孔が一箇所施されている。色調、胎土から縄文土器片の可能性がある。

なお、今回の調査では調査区の北側一帯が攪乱されており、その攪乱土内から多くの土器片が出土している。47～97がそれである。これらの土器を概観すると、甕、壺、高杯片が出土し、その施文様から弥生時代後期後半から古墳時代前期の様相を窺うことができる。特に、55,62の山形文の施文は特徴的で古墳時代前期(廻間Ⅱ式期)の様相を示している。

以上のように、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての土器が出土し、遺構(住居跡)は当該期の様相を示しているものと考えられる。



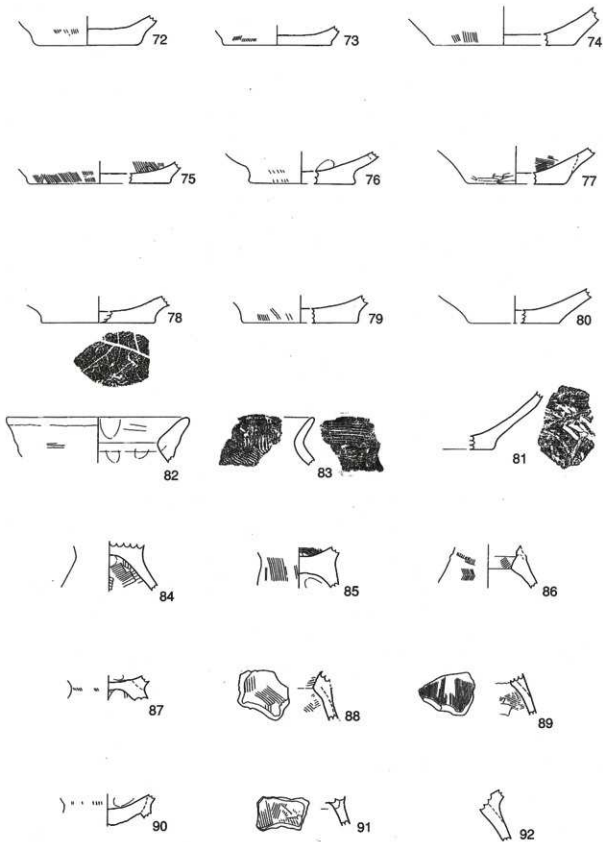
第10圖 出土遺物実測圖(1)



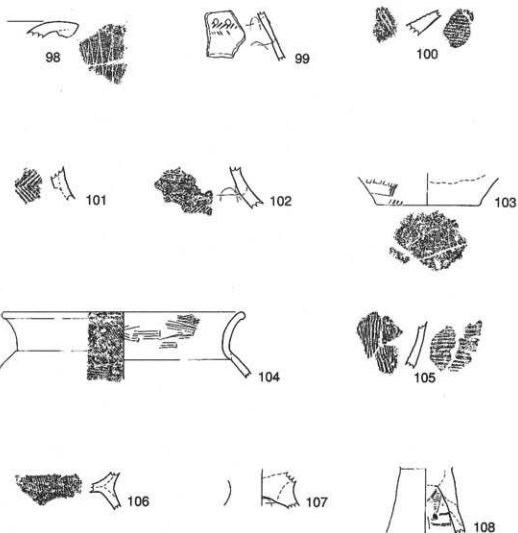
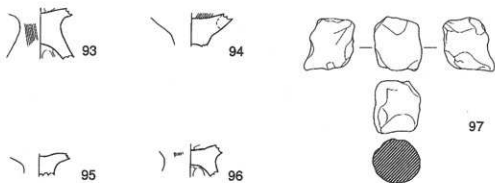
第11圖 出土遺物実測図(2)



第12圖 出土遺物実測圖(3)



第13圖 出土遺物実測圖(4)



0 10cm

第14圖 出土遺物実測図(5)

Ⅶ ま と め

高田遺跡と女高Ⅰ遺跡について

今回の調査では、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての遺構・遺物の検出が見られた。平成15年度の高田遺跡調査地点は、今回の調査地点から北へ50mほど行った地点であり、出土した土器の様相も今回出土した土器と同年代のものである。このことから、行人塚古墳の周辺の高田遺跡内の集落は、平成15年度の高田遺跡調査地点まで途切れることなく続いていることが明らかとなった。

女高Ⅰ遺跡・高田遺跡内において調査されてきた場所は、河岸段丘の縁辺に近いところである。これらの調査地点からは、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての集落跡が検出されているが、当該時期の墓は未発見である。当時の墓がどこに造られたのか、集落の規模はどれくらいであったのか等、今後の調査成果と周辺の調査に注目したいところである。

火葬遺構について

行人塚古墳の周辺の調査ではこれまでにも、近世の火葬遺構の検出が数多くある。しかしながら、近世遺構については注目されることなく、報告程度にとどまることが多々あった。

近年、中世から近世初頭にかけて墓制に関わる遺構に関心が寄せられ、詳細な報告が相次いでいる(木村2001)。特に近世初頭については、中世のそれまでの墓制の終着点として注目され、当該期の遺構は檀家制度に伴う火葬から土葬一色へと変換する時期を探る資料として注目されるものである。

今回検出した遺構はそのような中で、まさに当該期の資料としては好資料で行人塚古墳を聖地と見立てた墓地群とみることが可能と思われるものである。この葬法は、中世に遡ると考えられ、16世紀半ばに火葬遺構群として築かれた磐田市二子塚古墳中世墓(木村2003)など古墳を聖地ととらえ、火葬墓を築いた例が各所にみられる傾向と同様のものである。行人塚古墳の周辺域に火葬遺構が築かれ、墓地は古墳本体に築かれたものととらえられる。

出土したかわらけ3枚は火葬が終了した時点でのものであり、破砕もなく原形を保っていることからそのまま当該出土火葬骨(取骨されなかった火葬骨)とともに埋葬されたものと推定される。かわらけ端面にススの付着があり、灯明として使用された可能性もあるが、葬送に伴うものか否かは明らかでない。今後の資料の増加を待ちたいところである。

〔参考文献〕

- 木村 弘之 2001 「先祖の崇拝と精神文化」 『豊田町誌 別編Ⅱ・民俗文化史』豊田町
木村 弘之 2003 「旧田原村地内の中近世墓について」『東部土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書』磐田市教育委員会

第2表 出土土器観察表

図版 番号	器 種	出土地点	法 量				色 調	附 土	焼 成 考	
			口径(cm)	最大径(cm)	高さ(cm)	底径(cm)				
1	壺	2号住居跡					外:淡褐色 内:淡褐色	1~2mmの小石を含む	やや不良	
2	壺	2号住居跡					外:暗褐色 内:褐色	1~2mmの小石を含む	良好	
3	壺	2号住居跡					外:暗褐色 内:褐色	1~2mmの小石を含む	良好	
4	壺	2号住居跡					外:褐色 内:褐色	1~2mmの小石を含む	良好	
5	壺	2号住居跡					外:淡褐色 内:灰褐色	1~2mmの小石を含む	良好	
6	壺	2号住居跡					外:淡褐色 内:淡褐色	1~2mmの小石を含む	良好	
7	壺	2号住居跡			8.2		外:暗褐色 内:褐色	1~2mmの小石を含む	良好	
8	壺	2号住居跡			7.6		外:淡褐色 内:淡褐色	1~2mmの小石を含む	やや不良	
9	壺	2号住居跡					外:淡褐色 内:淡褐色	1~2mmの小石を含む	やや不良	
10	壺	2号住居跡			7.4		外:淡褐色 内:淡褐色	1~2mmの小石を含む	やや不良	
11	壺	3号住居跡	19.0				外:赤褐色 内:赤褐色	1~2mmの小石を含む	やや良好	
12	壺	3号住居跡					外:赤褐色 内:赤褐色	1~2mmの小石を含む	やや良好	
13	壺	3号住居跡		16.4			外:暗褐色 内:赤褐色	1~2mmの小石を含む	やや不良	
14	壺	3号住居跡	16.0				外:明赤褐色 内:明赤褐色	1~2mmの小石を含む	やや良好	
15	壺	3号住居跡					外:赤褐色 内:黒色	1~2mmの小石を含む	良好	
16	壺	4号住居跡					外:暗黄褐色 内:暗褐色	1~2mmの小石を含む	良好	
17	壺	4号住居跡					外:暗褐色 内:暗褐色	1~2mmの小石を含む	良好	
18	壺	4号住居跡					外:暗黄褐色 内:暗黄褐色	1~2mmの小石を含む	良好	
19	壺	4号住居跡					外:褐色 内:褐色	1~2mmの小石を含む	良好	
20	かわらけ	茶 屋 跡			8.7	2.6	3.7	外:暗褐色 内:暗褐色	緻密	良好
21	かわらけ	茶 屋 跡			8.6	2.5	3.6	外:暗灰褐色 内:淡褐色	緻密	良好
22	かわらけ	茶 屋 跡			8.8	2.65	3.7	外:暗灰褐色 内:暗灰褐色	緻密	良好
23	壺	A 4 区					12.0	外:淡褐色 内:淡褐色	1~2mmの小石を含む	良好
24	壺	A 4 区						外:暗褐色 内:褐色	1~2mmの小石を含む	良好
25	壺	B 3 区						外:暗褐色 内:褐色	2~3mmの小石を含む	良好
26	壺	B 3 区						外:黒褐色 内:黒褐色	1~2mmの小石を含む	良好
27	壺	B 4 区						外:淡褐色 内:淡褐色	1~2mmの小石を含む	やや良好
28	壺	B 4 区						外:暗黄褐色 内:暗黄褐色	1~2mmの小石を含む	良好
29	壺	B 4 区						外:黄褐色 内:黄褐色	1~2mmの小石を含む	良好
30	壺	B 4 区						外:淡褐色 内:淡褐色	緻密	やや不良
31	壺	B 4 区						外:暗褐色 内:暗褐色	1~2mmの小石を含む	良好
32	壺	B 4 区						外:淡褐色 内:淡褐色	緻密	良好
33	壺	B 4 区						外:淡褐色 内:黒灰色	1~2mmの小石を含む	良好
34	壺	B 4 区						外:褐色 内:黒色	1~2mmの小石を含む	良好
35	壺	B 4 区						外:黄褐色 内:暗灰褐色	緻密	良好
36	壺	B 4 区						外:褐色 内:暗褐色	2~3mmの小石を含む	良好
37	壺	B 4 区						外:赤褐色 内:黄褐色	1~2mmの小石を含む	良好
38	壺	B 4 区						外:淡褐色 内:赤褐色	1~2mmの小石を含む	良好
39	壺	B 4 区						外:暗褐色 内:黒暗褐色	1~2mmの小石を含む	良好
40	壺	B 4 区	15.4					外:褐色 内:褐色	1~2mmの小石を含む	良好
41	壺	B 4 区						外:褐色 内:褐色	1~2mmの小石を含む	良好
42	壺	B 4 区						外:赤褐色 内:褐色	1~2mmの小石を含む	良好
43	壺	B 4 区						外:褐色 内:黄褐色	1~2mmの小石を含む	やや不良
44	高 坏	B 4 区						外:赤褐色 内:淡褐色	緻密	やや不良
45	高 坏	B 4 区						外:黄褐色 内:黄褐色	緻密	良好
46	不 明	B 4 区						外:赤褐色 内:暗褐色	白色粒子を多く含む	良好
47	壺	北 区			22.5			外:淡褐色 内:淡褐色	2~3mmの小石を含む	やや良好
48	壺	北 区						外:黒褐色 内:褐色	2~3mmの小石を含む	良好
49	壺	北 区						外:褐色 内:褐色	1~2mmの小石を含む	良好
50	壺	北 区						外:黄褐色 内:暗褐色	緻密	良好
51	壺	北 区						外:黄褐色 内:暗褐色	2~3mmの小石を含む	良好
52	壺	北 区						外:赤褐色 内:暗褐色	1~2mmの小石を含む	良好
53	壺	北 区						外:赤褐色 内:黄褐色	1~2mmの小石を含む	やや不良
54	壺	北 区						外:暗褐色 内:暗褐色	1~2mmの小石を含む	良好

国庫 番号	部 種	出土地点	法 容				色 調	胎 土	焼 成	備 考
			口径(cm)	最大径(cm)	高さ(cm)	底径(cm)				
55	壺	北 区					外:淡赤褐色 内:淡赤褐色	緻密		やや不良
56	壺	北 区					外:灰褐色 内:赤褐色	1~2mmの小石を含む		良 好
57	壺	北 区					外:黄褐色 内:淡黄褐色	1~2mmの小石を含む		やや不良
58	壺	北 区					外:淡褐色 内:淡褐色	1~2mmの小石を含む		良 好
59	壺	北 区					外:淡赤褐色 内:淡褐色	1~2mmの小石を含む		良 好
60	壺	北 区					外:赤褐色 内:暗赤褐色	緻密		やや不良
61	壺	北 区					外:淡褐色 内:淡褐色	1~2mmの小石を含む		やや不良 赤影あり
62	壺	北 区					外:淡赤褐色 内:淡赤褐色	1~2mmの小石を含む		やや不良
63	壺	北 区					外:暗赤褐色 内:褐色	2~3mmの小石を含む		やや不良
64	壺	北 区					外:淡褐色 内:淡褐色	1~2mmの小石を含む		良 好
65	壺	北 区					外:褐色 内:黒灰色	緻密		やや不良
66	壺	北 区					外:淡褐色 内:淡褐色	1~2mmの小石を含む		良 好
67	壺	北 区					外:赤褐色 内:黄褐色	緻密		良 好 赤影あり
68	壺	北 区					外:赤褐色 内:褐色	1~2mmの小石を含む		良 好
69	壺	北 区					外:暗赤褐色 内:褐色	緻密		やや不良
70	壺	北 区					外:赤褐色 内:暗褐色	緻密		良 好
71	壺	北 区					外:褐色 内:淡褐色	2~3mmの小石を含む		良 好
72	壺	北 区			7.8		外:褐色 内:淡褐色	1~2mmの小石を含む		良 好
73	壺	北 区			8.5		外:淡褐色 内:淡褐色	緻密		良 好
74	壺	北 区			11.0		外:淡褐色 内:淡褐色	2~3mmの小石を含む		良 好
75	壺	北 区			11.0		外:淡褐色 内:淡褐色	緻密		良 好
76	壺	北 区			8.4		外:淡褐色 内:淡褐色	1~2mmの小石を含む		良 好
77	壺	北 区			7.6		外:暗褐色 内:暗褐色	1~2mmの小石を含む		良 好
78	壺	北 区			8.8		外:黒色 内:灰褐色	1~2mmの小石を含む		良 好 本器類あり
79	壺	北 区			9.0		外:暗褐色 内:暗褐色	2~3mmの小石を含む		良 好
80	壺	北 区			7.0		外:淡褐色 内:淡褐色	2~3mmの小石を含む		良 好
81	壺	北 区					外:黒褐色 内:黒色	1~2mmの小石を含む		良 好
82	壺	北 区	14.4				外:褐色 内:赤褐色	1~2mmの小石を含む		良 好
83	壺	北 区					外:赤褐色 内:褐色	緻密		良 好
84	壺	北 区					外:褐色 内:褐色	1~2mmの小石を含む		良 好
85	壺	北 区					外:淡褐色 内:淡褐色	2~3mmの小石を含む		良 好
86	壺	北 区					外:褐色 内:褐色	1~2mmの小石を含む		良 好
87	壺	北 区					外:暗褐色 内:淡褐色	3~4mmの小石を含む		良 好
88	壺	北 区					外:褐色 内:赤褐色	1~2mmの小石を含む		良 好
89	壺	北 区					外:褐色 内:赤褐色	1~2mmの小石を含む		良 好
90	壺	北 区					外:褐色 内:褐色	1~2mmの小石を含む		良 好
91	壺	北 区					外:褐色 内:褐色	2~3mmの小石を含む		良 好
92	壺	北 区					外:淡褐色 内:赤褐色	1~2mmの小石を含む		良 好
93	高 環	北 区					外:赤褐色 内:赤褐色	1~2mmの小石を含む		良 好
94	高 環	北 区					外:赤褐色 内:褐色	1~2mmの小石を含む		良 好
95	高 環	北 区					外:黄褐色 内:黄褐色	1~2mmの小石を含む		やや不良
96	高 環	北 区					外:淡褐色 内:淡褐色	1~2mmの小石を含む		良 好
97	不 明	北 区	3.6	3.8			赤褐色	1~2mmの小石を含む		良 好
98	壺	攪乱内					外:黄褐色 内:暗褐色	1~2mmの小石を含む		やや不良
99	壺	表 探					外:暗褐色 内:黒色	緻密		やや不良
100	壺	攪乱内					外:黄褐色 内:黄褐色	1~2mmの小石を含む		良 好
101	壺	攪乱内					外:淡褐色 内:淡褐色	1~2mmの小石を含む		やや不良
102	壺	攪乱内					外:赤褐色 内:淡褐色	1~2mmの小石を含む		良 好
103	壺	攪乱内					外:暗褐色 内:暗褐色	1~2mmの小石を含む		やや不良 本器類あり
104	壺	攪乱内	18.8				外:暗褐色 内:暗褐色	1~2mmの小石を含む		良 好
105	壺	攪乱内					外:黒褐色 内:暗褐色	緻密		良 好
106	壺	攪乱内					外:褐色 内:褐色	1~2mmの小石を含む		良 好
107	壺	攪乱内					外:暗褐色 内:褐色	1~2mmの小石を含む		良 好
108	高 環	表 探					外:赤褐色 内:赤褐色	緻密		良 好

※法量のうち、()内の数値は推定値である。

写真図版



調査地遠景（東から河岸段丘を望む）



調査地南区全景



調査前の状況（南東から）



調査地南区完掘状況（北から）



調査地北区完掘状況（南から）



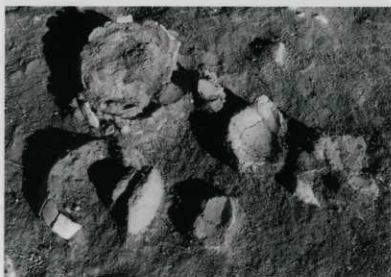
SB-1完掘状況（北から）



SB-2・SB-3完掘状況（北から）



SB-4完掘状況（北から）



SB-3 床面遺物出土状況 (西から)



SB-1 炉跡 (北東から)



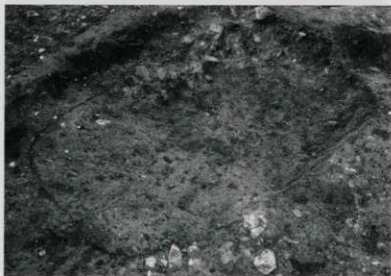
SB-2 炉跡 (南東から)



火葬遺構検出状況（北から）



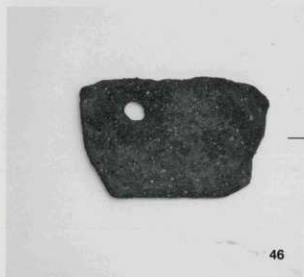
火葬遺構内遺物等出土状況（北東から）



火葬遺構完掘状況（北から）

图版 6





報告書抄録

ふりがな	めだか いち い せき							
書 名	女 高 I 遺 跡							
副 書 名	茶園改植に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
編 著 者 名	木村弘之、前田庄一							
編 集 機 関	掛川市教育委員会							
所 在 地	〒436-8650 静岡県掛川市長谷一丁目1番地の1 TEL (0537) 21-1158							
発行年月日	西暦 2006年3月24日							
所収遺跡名	所 在 地	コ ー ド		北 緯	東 経	調 査 期 間	調 査 面 積	調 査 原 因
		市町村	遺跡番号					
女高I遺跡	静岡県掛川市 吉岡1905-3, -4,-7,-8, 1208-1	22213	K-244	34度 47分 21秒	137度 57分 02秒	20041012 } 20041224	525㎡	茶園改植
所収遺跡名	種 別	主 な 時 代		主 な 遺 構		主 な 遺 物		特 記 事 項
女高I遺跡	集 落 墓	弥生時代後期～ 古墳時代前期 近 世		竪穴住居跡 4軒 火葬遺構 1基		弥生土器 土 師 器 かわらけ		
要 約	眼下に河川を望む標高47m前後の台地上に立地。弥生時代後期後半(菊川式)～古墳時代前期の住居跡4軒(形状:隅丸方形)を検出。このほか、近世の火葬遺構1基が検出された。							

※緯度・経度は世界測地系を使用

女高I遺跡 発掘調査報告書 茶園改植に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 平成18年3月24日 編集発行 掛川市教育委員会 静岡県掛川市長谷一丁目1番地の1 TEL (0537) 21-1158 印 刷 株式会社 彩光堂 静岡県掛川市宮脇248-1 TEL (0537) 24-0013	
--	--

